

会報

No. **121**
令和4(2022). 10. 1

市民とともに歩んで 10 周年

伊丹市立図書館「ことば蔵」 館長 なかつ まさひと 中田 正仁

伊丹市立図書館本館「ことば蔵」は、平成24年7月「公園のような図書館」をコンセプトに、中心市街地の一角、宮ノ前にオープンしました。



館内には、伊丹市にゆかりのある作家、故田辺聖子氏、宮本輝氏の著作を紹介する伊丹作家コーナーや、高校生と連携して運営するYA（ヤングアダルト）

コーナー、各種イベントなどで利用できるギャラリーや多目的室などを設けています。

本年7月1日で開館10周年を迎え、これまで350万人を超える方々のご利用を頂いてきました。

<これまでの取り組み>

当館の特徴でもある交流事業は、年間200回を超える事業が開催され、多くの市民が集まります。これらの事業の源となる交流フロア運営会議は、毎月第1水曜日に開催しており、会議では自分がやりたいことを持ち寄り、どのように実現していくかを考え、会議での意見をもとに事業を実施します。こうした交流事業からは、「ビブリオバトル」や「いたみアーカイ部」、「カエボン部」など継続的な市民活動も生まれてきました。また、学校や、市内企業、郵便局や昆虫館など多彩な連携事業も行っています。

こうした、市民と実践する学びや遊びに関する創造的な活動・地域の学校や企業等との連携が評価され、平成28年には「Library of the year 大賞」を受賞することができました。

また、読書活動の推進にあたっては、読み聞かせボランティアを中心としたお話会やストーリーテリングなど親子向けの事業を開催するとともに、「本の通帳」の配布や「一日図書館員」、季節や話題のテーマ展示を行うなど、幼少期から図書館をより身近に感じながら読書習慣の定着につながる事業を展開しています。令和2年には、地域の企業や学校と連携しながら開催している本市の「図書館を使った調べる学習コンクール」が、全国コンクールにおいて「総務大臣賞」を受賞、全国に誇れる評価を受けたことで、職員のモチベーションアップにもつながったと感じています。

昨年度からは新たな取り組みとして、視覚障がいのある方だけでなく様々な障がいでも本を読むことが難しい方も読書に親しめるよう「マルチメディアデージー」の貸出を始めました。

<10周年を迎えて>



開館10周年記念事業では、来館者に記念ブックカバーやステッカーなどを配布。オープニングイベント

として落語会やバルーンアートショーを開催し楽しんでもらいました。8月には「これからの図書館を考える～市民と創る交流の場」と題して瀬戸内市民図書館元館長の嶋田学さんの講演会を開催し、図書館としての新たな視点や取り組み方など多くの学びがありました。12月にはイラストレーターで絵本作家である永田萌さんの講演会「心を彩る読書」を開催しますので、是非お越しください。

また、7月から図書館システムがリニューアルしました。特に、インターネット利用者向けのMyライブラリの新機能として、スマートフォンに利用券バーコードを表示できる「スマホ利用券」、市民の読書意欲向上への一助として、利用者が期間を定めて目標読書冊数を登録し、その進捗状況をネット上で表やグラフで可視化でき、楽しみながら読書できる「読書チャレンジ機能」などを追加しました。



昨今、図書館の大きな転機としてデジタル化への取り組みが全国ですすめられています。一方で、事業やレファレンスなど様々な機会において利用者の方々と繋がり、会話を通して新たな取組を生み出すことも求められると感じています。これからも市民と共に歩む図書館を目指して参ります。

議員の調査研究に資するために。「兵庫県議会図書室」のご紹介

兵庫県議会図書室 主任 鈴木 英雄

兵庫県議会図書室は、地方自治法第100条第14項（現行第19項）「議会は、議員の調査研究に資するため、図書室を附置し（後略）」の規定に基づき、昭和23年3月に設置され、図書の選定、収集、貸出、レファレンスなどの業務を行っています。



一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする図書館とは、その目的を異にするため、自ずと運営も異なります。

図書は約57,000冊を所蔵していますが、県議会史（議会図書室で編纂）、地方自治に関するものやそれに関連する政治、議会、法律、財政、産業、経済、社会、労働、保健、医療、福祉、環境、防災、教育、警察等に関するもの、郷土関係、白書・年鑑などが中心で、文芸書、絵本・児童書、趣味実用書、美術書などの図書はほとんど所蔵していません。

資料は約24,000冊を所蔵していますが、県議会会議録・議案、県公報、阪神・淡路大震災関連などの県発行資料や政府発行資料、他都道府県や市町発行資料が中心です。

雑誌は約15,000冊を所蔵していますが、地方自治関連雑誌、経済雑誌、総合雑誌、法律雑誌が中心で、文芸誌、一般週刊誌、婦人雑誌、生活実用雑誌、趣味娯楽雑誌などは所蔵していません。

その他に新聞類も所蔵しています。
貸出は、議員優先で議員の調査研究に支障のない範囲

で職員にも貸出を行っていますが、一般利用者については閲覧のみとしています。

貸出期間は2週間、一人2冊以内としていますが、議員を中心に必要に応じて柔軟に対応しています。

例えば、本会議前に質問を行う議員から「道州制に関する比較的新しい本を探して欲しい」、「大都市制度、特別自治市がテーマの図書、雑誌を探して欲しい」といった特定テーマの図書、雑誌のピックアップの依頼を受け、一度に10冊以上を貸出すといったことも行っています。

また、県史編纂部門の職員に、県発行資料等を年間1,000冊以上貸出しを行ったこともあります。

レファレンスでは、議員、職員、一般利用者からの問い合わせに対応していますが、議員からの「〇〇県の先進事例を調べて欲しい」といった幅広い依頼や、本会議前の「県の出資法人の経営状況説明書から〇〇公社の支払利息がわかる部分の写しを過去10年分欲しい」、「県議会での阪本知事の提案説明の写しが欲しい」といった個別具体的な依頼など様々な依頼に対応しています。



このように一般利用者の利用は限定的で、言うならば県議会の組織内図書室といった特質を持っています。「議員の調査研究に資する」という第一義的な目的を踏まえて、これからも議会図書室の運営を行っていきます。

来フ拉里~

二十年二昔

神戸市立中央図書館

はまぐち かおり
濱口 香織

このたびは永年勤続表彰をいただき、どうもありがとうございます。間に育児休業を挟みながら、図書館で働いて二十数年が経ちました。

勤め始めた時には既に業務が電算化されていたのでブラウン方式は経験したことが無いのですが、それでも、随分時代が進んだと感じます。電子書籍や音声・動画の配信は当たり前。図書館でも、連絡がメール中心となり、自動貸出機や電子図書館などの新しいサービスが生まれました。

先日、息子の自由研究に付き合おうと、実験のテーマ探しから失敗時のヒント、結論まで、全てタブレットで完結してしまいました。でも、そんな息子も読書は紙の本で、自然に電子媒体と紙媒体を使い分けているようです。

たくさんの利用者が訪れている窓口を見ていると、電子化が進んでも、図書館はずっと必要なのだと思います。地域や他機関との連携も活発になっています。これからも利用者に接しながら、図書館に求められていることを汲み取っていきたいと思います。

図書館に勤めて

佐用町立図書館 おさき のりこ
尾崎 典子

山あいの小さな町に初めての図書館ができると聞いたとき、とても嬉しく思ったことを覚えています。まさか自分がその図書館で15年以上も勤務することになるとは思いもしませんでした。

異動当初は、それまでと全く違う業務にとまどい、利用者さんに話しかけられるたびに、何を聞かれるのだろうとドキドキしていました。今日まで勤務してこられたのも、頼りになる周りのスタッフのおかげだとかから感謝しています。

開館22年目を迎え、図書館の蔵書も14万冊を超えました。保育園や小学校でのおはなし会、福祉施設訪問などの通常の活動のほか、毎年、本の貸出につながるような企画を考え、一人一事業を実施しています。また、最近では、自分たちで読んだ本でこれほどかという本を集め、新しくYAコーナーも新設しました。

図書館になじみのない方に足を運んでいただくのはなかなか難しいですが、こうした活動をきっかけに、こんな本も置いてあるのかと知っていただきたい。そして、来られた方には、図書館っていい所だなと少しでも感じていただけるよう笑顔で今後も取り組んでいきたいです。

図書館と私

加東市中央図書館 おかだ なつこ
岡田 名津子

自分が長く図書館に勤めているということ、普段はあまり意識することもなく過ごしていますが、時々強く実感することがあります。

それは、小学生だった利用者さんがいつの間にか成人して久しぶりに本を借りに来てくれた時です。大人になった姿にすぐにその子だとは気付かず、利用者カードのお名前を見てハッとすることも多々あります。声をかけると向こうも覚えてくれていて、近況を報告してくれる笑顔に昔の面影が重なって懐かしい気持ちになったりします。

加東市立図書館の一つである図書・情報センターが残念ながら閉館することになった時の話です。小さな図書館でしたが小学校が近いこともあり、放課後バス待ちの子どもたちが毎日本を読みに来ていました。私はこの館には新米のころ数年、あいだ数年、閉館の年と長く勤務していたため思い入れが深く、閉館の日が近づくにつれ寂しい気持ちになっていました。

そんなある日、知らせを聞き当時小学生だった子が訪ねてきてくれたのです。胸がいっぱいになりました。図書館はなくなるけれど、きっとこの子どもたちの心の中にはその時読んだ本と一緒に残り続けるんだろうな。うれしい思い出のひとつです。

思いとともに

佐用町立図書館 なかお ともこ
中尾 智子

実務未経験だった私が佐用町立図書館に勤めて早15年経ちました。先輩や後輩の方々には迷惑をかける度に助けられ、支えてもらいながら勤務できたことに深く感謝しています。

未だ勉強不足、経験不足もあり、特に郷土のことは地元でない私には「???」ばかりで、利用者の方から教えてもらうことが多々あります。来館する子供たちからも、興味のあること、ハマっている物を教わり、新しい世界を知ります。改めて発見させられることもあり、年齢問わず、好奇心旺盛で勉強熱心な方々に驚かされるとともに、気さくに話しかけてもらって、励まされてきた日々です。

当館では季節の本や、特集コーナーなど設置しています。この夏、来館の少ない中高生に向けてYAコーナーを新設しました。多彩な趣味を持つ方々の参考としてももちろん、「ちょっと見に行こう」と気楽な気持ちで、日常生活の一息入れる場所としても、当館をずっと利用していただければと願っています。今後も利用者の声に耳を傾けながら、よりよい一冊に出会ってもらえるように、微力ながら努めてまいります。

協会からのお知らせ

表彰者の紹介（敬称略）

永年精勤 濱口 香織（神戸）
岡田名津子（加東）
阿江 里佳（加東）
尾崎 典子（佐用）
中尾 智子（佐用）
功劳顕著 仲井 徳（川西）

令和4年度役員紹介（敬称略）

会長 村上 元伸（県立）
副会長 小藤智代美（県立）
岡田 宏二（神戸）
安福真理子（尼崎）
田村 浩三（加古川）
理事 中田 正仁（伊丹）
伊藤 陽子（加西）
干谷 葉子（姫路）
阿部 恭子（たつの）
近藤 利明（丹波）
椿野 貢（但馬）
坂口 祐希（淡路）
葦津 賢一（議会）
監事 永尾理恵子（宝塚）
大久保明子（明石）

令和4年度予算

（単位：円）

〈一般会計〉

事務局費	90,000
事業費	580,000
事業特別会計費	100,000
全公図分担金	43,000
予備費	43,332

〈兵庫県立図書館託送システムの運営経費一部負担特別会計〉

負担金	500,000
予備費	5,476

令和4年度 地区別研修会

○神戸・阪神地区
「公共図書館の児童サービス・子どもの読書について」／川西市立中央図書館／2月10日（金）

○東播磨地区
「児童図書館員に求められるもの」／兵庫県立図書館／12月7日（水）
○西播磨地区
「地域資料サービスの実践と展開」／たつの市総合文化会館アクアホール／11月10日（木）
○但馬・丹波地区
「図書館サービスと著作権」／丹波市氷上住民センター／11月25日（金）
○淡路地区
「YA世代向けのイベント・サービス」／淡路市立津名図書館／9月6日（火）

令和4年度の大会・研究集会 （今後の予定）

○第108回全国図書館大会群馬大会

「本と人が織りなす図書館の未来」／10月6日（木）・7日（金）／オンライン配信を視聴（参加者に視聴用ID等を提供し視聴）

○全国公共図書館研究集会

・サービス部門 総合・経営部門

「図書館におけるDXの可能性」／10月27日（木）～11月23日（水・祝）／YouTubeによる動画配信（限定配信）

○近畿公共図書館協議会研究集会

「いま図書館に求められる児童サービスについて」／11月18日（金）／明石市子午線ホール

○文科省・図書館地区別研修（近畿地区）

「図書館の可能性を考える」（仮）／令和5年1月24日（火）～26日（木）／大阪市立中央図書

兵庫県図書館協会会報 No.121

令和4（2022）年10月1日 発行

編集・発行：兵庫県図書館協会

〒673-8533 明石市明石公園1-27

兵庫県立図書館内

Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500